

# 学力向上をめざして 研修資料

1時間1時間を大切に、分かる授業の積み重ねを！

○特別支援教育を田幸小学校全体で！

○教師同士の学び合いを！教室を解放しよう！

## 児童実態として・・・

- ・姿勢保持ができない。(うつぶせ、椅子の上に足、肘杖・・・)
- ・集中できる時間が短い。気が散る。
- ・基礎的な計算力が身につけていない。(4年生で九九が！)
- ・漢字が書けない。読めない。
- ・読むことに時間がかかる。
- ・読むことへの抵抗が大きい。

## 学力保障いつやるの？

- ・6時間目終了後、下校までの時間がな  
いから、放課後補習はできない
- ・休憩時間は、思いっきり遊ばせてやり  
たい。
- ・宿題をしてこない児童がいる。



提案1 音声計算→計算力アップ

提案2 ビジョントレーニング→読む力アップ

提案2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

→発達障害の子には「ないと困る」支援

→どの子にも「あると便利な」支援

提案4 感覚統合運動→集中力アップ、姿勢保持、情緒の安定

お行儀よく座らせて行う  
一斉授業から脱却！

# ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

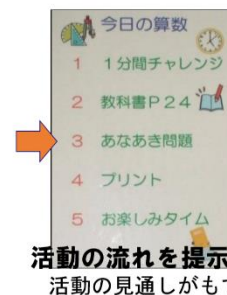
ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

## 参加

- 1 時間の構造化
- 2 場の構造化
- 3 刺激量の調整
- 4 ルールの明確化
- 5 クラス内の理解促進

### 1 時間の構造化

- 学習活動の順番提示
- 所要時間、終了時刻の事前提示 活動時間の提示  
→終わりの時間が分かる
- 活動の流れを提示  
→活動の見通しがもてる 集中が続く



活動の流れを提示  
活動の見通しがもてる



活動時間の提示  
終わりの時間が分かる

ポプラ学級→見えるタイマー

みんなでやってみよう！→複式授業のためにも算数はある程度パターン化して提示

やってみる？→低学年は時計模型の提示

### 2 場の構造化

#### 整理整頓、活動や動線を考慮した教材の配置

物の置き場所を決める 整理の仕方を教える

ポプラ学級→動線を考えた棚や、文具の配置

みんなでやってみよう！→机位置をマジックで、

やってみる？→文具や教室備品の位置配慮、テプラで位置固定



物の置き場所を決める

整理の仕方を教える

### 3 刺激量の調整 光や音、室温への配慮、学習のねらいや活動に応じた教材の提示

掲示物を精選 教室環境をシンプルに 音への配慮

ポプラ学級→廊下側にカーテン設置、パソコン室の仕切り、パテーション

みんなでやってみよう！→教室の前面掲示物は最小限、戸棚の目隠し→【別紙提案】

やってみる？→

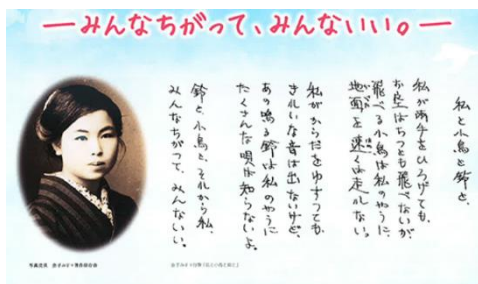
### 4 ルールの明確化 発言や聞く態度、ノートの書き方等のルールの明確化と共有

やってみる？→児童のノート掲示

## 5 クラス内の理解促進 間違いや分からないことを受容し、お互いを認め合う関係づくり

学級経営の基本！

本年度の田幸小学校のめざす 表現力のもと！



実際の

日々の**授業づくり**では、

ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

### 理解

#### 1 焦点化

学習のねらいや活動を絞り込む

#### 2 展開の構造化

授業スタイルのパターン化 等

#### 3 スモールステップ化

課題の難易度の調整(子どもの実態に応じて活用)

### 授業 UD の三要件

#### 授業UDの三要件 (Ver.1)

##### ◎焦点化(シンプル)

→指導内容を絞る

##### ◎視覚化(ビジュアル)

→学習内容をイメージしやすくする

##### ◎共有化(シェア)

→学習者間で、学びを確認・拡散する

笠原/桂聖 著「国語授業のユニバーサルデザイン」

(2011年、東洋館出版)

### ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

#### 授業づくりの12のポイント

- Point 1 教室が整理整頓されている
- Point 2 生活の見通しをもたせる
- Point 3 正しい姿勢を意識づける
- Point 4 教員はていねいな言葉を使う
- Point 5 「話すルール」を確立する
- Point 6 授業の始めと終わりをはっきりさせる
- Point 7 指示の出し方を具体的に示す
- Point 8 指示・説明と子どもの活動を分ける
- Point 9 発表する時は、発表する子どもにクラス全体が注目するようにする
- Point 10 視覚的な手がかりを示す
- Point 11 わかりやすいワークシートを用意する
- Point 12 子どもの個人差を考慮し、基礎と発展を明確にする

# 感覚統合の考え方を生かした指導のアイデア

NPO法人なごみの杜代表 土田 玲子 (元広島県立大学保健福祉学部作業療法学科教授)

## ○感覚情報処理の問題

- ① この症状自体がスペクトラム (連続体) である。

個人差により不適応の状況もさまざま 重度保ほど多くの感覚領域に症状がみられる

- ② 困り感は社会的、物理的環境や体調などによって影響される。

エピソード：音楽室から逃げ出していた児童が、劇に合わせバックミュージックを奏でた！  
職員室登校でグラウンドの砂を食べていた児童が、学力をつけて難関大合格。

- ③ 感覚調整の問題は「過敏」性だけでなく「低反応」性による症状も含まれる。

例：塀の上を歩くのが大好きな子と、極端な高所恐怖症

- ④ 感覚調整の問題は、上道や覚醒水準、注意能力、行動の領域に現れやすい。

イライラ、不安、恐怖、喜怒哀楽の表現などの情動や、乱暴の行動特性は、心理的な問題だけでなく、感覚調整の問題が潜んでいる可能性もある。



★感覚調整の問題を抱える少数派の子どもの特性を知り、理解することで子どもの環境や課題を調整できる。

## ○感覚情報の受け取り方に困っている子どもたちに対する支援

- ① 正しい理解を

第三者以外になかなか理解できない。

エピソード：赤白帽子のゴムをしたがらない。社会見学に行くと頻繁にトイレに行きたがる。

音楽の時間にリコーダーの個人練習が始まると不機嫌になる。掃除で床拭きをしない。  
給食で好き嫌が多い。



- ② 環境や課題の調整

【例】・運動会の大きな音響のアナウンスやピストル廃止

- ・座る位置を一番後ろや本棚の横にする。(H児→座る位置は、前の入り口側)
- ・プリント配布などで授業中、合法的に動く場を与える。
- ・エアークッションや一本足の椅子に座らせる。(A児→折り畳み椅子に正座)



- ③ 自己調整支援

【例】・イヤーマフやノイズキャンセリングつきイヤホン (A児→昨年度の工場見学で準備)

- ・帽子やフードを被る サングラス 狭い場所にこもる 5kgくらいの米袋を膝にのせる
- ・ブランコで揺れ続ける。トランポリンやバランスボールで遊ぶ。

土田先生エピソード：みんなでビオトープを作ったら、学級が落ち着いた。

## ○不器用な子どもを理解しないと・・・

不器用さ＝行為機能障害

「授業中、姿勢が崩れやすい」「枠の中に字が収まらない」「鉛筆やハサミの持ち方がおかしい」「定規やコンパス、分度器がうまく使えない」「縦笛がうまく吹けない」「縄跳び、跳び箱、ボール遊びがうまくできない」「整理整頓が下手」「服の着替えが遅く、シャツの裾が出ている」



保護者や教師にその困難さを深刻に受け止めてもらえない  
度重なる注意、叱責 書き直しや繰り返し練習の強要



二次障害 (不適切な行動 不登校 いじめ 劣等感 不信感 虐待・・・)

漢字が覚えられないなら10回ずつ書きなさい!



### ○不器用な子どもの支援

無理強いしない。子どもたちが楽しく意欲的に取り組めるよう展開する。ゲーム形式やクイズ形式がよい。

抗重力姿勢の発達を促す活動や座位→「スクーターボード」

立位バランスの発達を促す活動→「毛布そり」「椅子などを使ったサーキット」

体幹の同時収縮を促す活動→「トンネルくぐり」「雑巾がけレース」「マット運び」

複合動作の活動→「風船バレー」「枕投げゲーム」



### ○学校現場での実践を考える

ちゃんと座いなさい! ❌

#### 子ども理解に役立つ

「姿勢が悪い」  
「ボーンとしている」  
「貧乏ゆすりや椅子をガタガタさせている」

寝たらダメ! ❌

姿勢よくしなさい! ❌

「バランスが悪いのかな？」  
「覚醒が低いのかな？」  
「授業が分からなくてつまらないのかな？」

「もっと体を動かす授業をしてみよう」  
「子どもの興味を引く教材を工夫してみよう」  
「この子は、どこまで理解できているのか。注意してみよう。」

### 「動く授業」「感じる授業」「体験する授業」を工夫しよう

・机上でとらわれない。アクティブに。体育館や廊下で授業をしよう! 外に飛び出そう!

例: 学校の〇を探そう! 1個のアサガオから何個の種ができた? 一番太いポプラの木は?

### 子どもの個性別や達成感、能動性を重視した授業展開

・個々の子どもの発達課題は多様→個々の子どもの反応、達成度をよく観察し、課題の応用、展開を工夫

例: 動きたい子には、プリントや道具の配布の役割を与える。

同じような課題でも、いくつか難易度の異なるものを用意し、子どもに選択させる。

※算数の「ほじゅうのもんだい」は  計算が得意な児童も退屈しない。

### 合理的配慮、環境調整、課題調整に役立つ

・ストレスを感じさせないように、道具や課題の調整、役割の工夫をし、自信をもって活動に参加できるように。

やり切らせることも大事だが、ゴールは同じでなくてもいいのでは?!

具体的で小さな目標をたて、スモールステップでできることを積み上げて達成感を持たせよう!